

2023年7月30日 シンガポール発横浜行き Spectrum of the Seas の旅

ー 私が見た堕ちたロイヤルカリビアン

石田純郎（会員）

2011年7月から2020年3月までに、外国船の外国発着クルーズを15回経験した。利用したクルーズ会社は、ロイヤルカリビアンが5回、カーニバルが2回、プリンスが2回、ホランド・アメリカラインが2回、キュナードが1回、コスタが1回で、利用頻度が多い会社ほど、私の評価は高かった。

巨大な新造船 ロイヤルカリビアンの Spectrum of the Seas のシンガポール発横浜行のクルーズが催行されると聞き、嬉々として予約した。7月30日にクルーズセンターでチェックインの際から、違和感を感じた。客をフォーク状に並ばせ、空いたデスクへ客を回すのが常識的であると思うが、各デスクの前に個別に客を並ばせた。比較的短い列を選択したが、先客はクルーズプラネットの2人組と6人組の二組、手続きは異常に長時間かかった。列に並んでいる時に、こちらが日本語で会話しているのに、体を背け、目さえ合わさず、挨拶すらしてこない輩たちである。事務の遅延は日本人客の不慣れからかと思いきや、当方の番になっても時間がかかる。係員にクレジットカードを見せたが、シーパスに紐づけることをせず、横浜着岸時に大きなトラブルを引き起こした。後列の西洋人はあまりの遅さに怒りだした。

初日の夕食のダイナーにメインダイニングの指定された席に行った。座席の上にテーブルクロスで隠すように、幅1m、高さ50cmほどの黒い箱がある。開けてみて驚いた。調理人用の包丁が20丁ほど、日本の電車でこれが起きたら、1000名の乗客が逃げまどい、数人が怪我をし、被疑者は懲役2年はくらうだろう。説明と謝罪を求めたが、なし。注文した白ボトルワインがメインデッシュ食了直前に出てきた。こうした給仕と今後付き合いたくないので、PCで食卓配置管理していた船員に、この場所から広く離れた新しいテーブルを手配して頂いた。

翌日の新しい席のダイナーでも問題が発生、飲んでもいない他の卓のグラスのレシートを持って来た。当然ながら署名をしなかったが、実際に飲んだボトルワインと共に請求された。この2重請求に気づいたので、事務所に行った。トラブル満載船のこの事務所はいつ行っても、長蛇の列である。係員は「ヒューマン・エラー」と言い放ち、詫びはなし。詐欺だろう。

その翌日の食事で、ナイフ・フォークの汚れに気づいた。隣客は皿の汚れを指摘した。サラダには異物が混じり、スパゲッティ・ボロネーゼの麺はぐたぐたに煮らており、アイスクリームはミルク汁になって届いた。食器を交換させたが、数日後、船内だけの飲食にも拘わらず、家内は物凄く臭い下痢便、腹痛をきたした。半世紀 臨床医をしている小生、自分が臭っても鼻が曲がるほど臭い下痢便は、細菌性腸炎によるものと診断している。手持ちの抗生剤を3日分飲んで軽快したが、船内医療所で診察を受けたら多大な診察費を払わされ、

上陸時、隔離されてしまうリスクがあった。

メニューも使いまわしが激しく、汚れが目立ち、清潔感に欠けた。テーブル上のバター入りは欠品の時の方が、所定数入っている時よりも多かった。

食事はあまり美味しくなく、料理の種類が少なく、毎日似たものばかり。旗日には無料で複数振舞われたロブスター・テイルも有料高価で、一つ 17 ドル。Wifi も 1 日当たり 25 ドル、スマホも船内新聞も上陸地観光の詳細も、Wifi を買わないと情報入手ができない。もっとも、部屋のメイドに依頼すると紙の新聞は持って来る。観光はコーナーでシーパスを挿入すれば情報が入手できると判っていたが、シーパス情報漏洩を恐れしなかった。今回は日本人オーガナイザーの新聞日本語要旨版が配られ、有益であったが、タイ王国のニャチャンに寄港とするような間違いが散見された。

船上でウエルカム・パーティーがある筈なのに、船内新聞から予定を見つけ出すことができなかった。リピーター・クラブのパーティーには招かれ、シャンパンを頂いた。プラチナ・クラスというからどれ程高いステータスかと思いきや、下から二つ目。劇場で開かれた船長と主要船員との面談懇話会に行った。池田良穂事務局長が専門的なことを船長に問ったが、まともな返事は返ってこなかったようだった。

ショーも酷かった。今まで経験したことのないドタキャンが 1 回、後はスポットライトを客席に向けるという禁じ手とヴォリュームいっぱいの音をがなり立てる聴覚障害者向けのやかましいショーが 7 回、演出者の勘違いが聴衆を苦しめ、途中退場する人も多かった。辛うじて 60 点取れたたのは催眠術ショー（当然ながら、数名の桜 混在）、ムーランルージュのカンカンを含むクラシックな複数人によるダンス、NZ 出身のジェレミー・アスレーのコミカルなワンマンショー、バイオリン・弦楽器の男性 4 人組の演奏の 4 回に過ぎなかった。

キャビンの掃除係メイドの減数のため、朝夕の 2 回行われていたキャビンの清掃が 1 日 1 回になったのも、豪華感を削いだ。

キャビンのテレビのプログラムにも大きな問題があった。日本語のテレビ放送がなかったのは、日本国力の低下で仕方がないとしても、英語の放送が三つしかない。その一つ、BBC の放送は、香港ではほとんど映らない。他はすべて中国語である。CCTV(中国国営放送)と映画では繰り返し、反日ドラマ・映画を流していた。中国東方航空や南方航空の機内テレビで反日映画を流しているのと同じ傾向である。国際道徳に反している。

寄港地の具体的な接岸場所の前もっての説明は一切なかった。実に不親切である。接岸場所からの交通は、香港で最寄り MRT への定期ミニバス、香港、清水、横浜で船会社が直接係わらない勝手送迎バスがあった。

寄港地で上陸の際のトラブルも相次いだ。トラブルがなかったのは、香港、基隆、横浜だけだった。ベトナムのニャチャンはテンダーボートによる上陸であるが、渡船開始早々に故障し、1 時間半中断した。昼前には着く整理券を持っていたが、2 時間遅れて上陸、舗装していない凸凹の広場、しつこい客引き、零細商店、零細食堂のみで、免税本店と大型商店が

ないので、100年前にフランスが建てたクラシックな水産博物館棟の写真だけを撮っただけで、30分で引き揚げた。

神戸港では船会社誘導の不手際、日本入国管理の不手際で、上陸7時半開始、11時完了の予定が、終了が13時10分までずれこんだ。午前10時以前は配布した整理券の予定通りの時間に処理できず、乗客同士のもみ合いがあった。大半の場合は自国民優先レーンを作るのであるが、日本人レーンに身障者と外国人まで受け入れるので、自国民逆差別レーンとなり、かえって時間がかかった。神戸ポートターミナルにはATM、両替所が決定的に少なく、ここも外国人の長蛇の列。出航は17時30分なので、最後の入国審査者の神戸滞在時間はわずか4時間、船内での神戸の評判は地に堕ちた。

「富士山」と称する清水港では税関がでしゃばり、全員の精密検査を施行、全員下船まで2時間以上かかった。乗船は18時半なので、最後の通過者の清水滞在可能時間は4時間に過ぎなかった。帰船時に係長クラスとみえる税関官吏に理由を聞いた。「外国船だから」と答えたが、この答えには相当問題があろう。日本入国後、毎日各港で税関検査をする考えがおかしい。税関官吏の人件費の無駄使いだ。名古屋税関を通じ、清水税関長にメールで質問状を入れている。

横浜上陸時、他の乗客には大きな問題は生じなかったが、私には大問題が生じた。事務室に行き手続きをしない限り上陸不可だと告げられ、雑踏を逆流し、事務局へ行った。チェックインの際にクレジットカードを見せたが、紐付けをしていないことが分かった。シーパス自体の利用上限も500ドルで、12晩すべてボトルワインを注文したら、一晩40ドルの安ワインしか注文できないシロモノである。係員は謝罪し、その後、近道で船外へ誘導したが、家内が待っている場所とは700mも離れている場所で、その場にいた臨地船会社係員が代わりに家内が待っている場所へ行って、私のトランクを持ってきてくれた。

ダイナーで臨席になった60歳代のカンタベリー出身のイギリス人夫婦も、ロイヤルカリビアンは以前と全く別の低サービス船になったという感想を述べた。単独乗船の60歳位の日本人男性も同意見だった。こんな会社のクルーズには私はもう乗りたくない。コロナの流行で一旦ほとんどの従業員を首にし、再開決定後、新たに大慌てで集め、教育訓練不十分のまま採用したからこうなったんだろう。とにかく、ささいな過誤とは言えないことが毎日のように起こった。

来年2月10日にはシドニー港からマジェスティック・プリンセスの南洋諸島クルーズを予約している。プリンセスの墮落がロイヤルカリビアン並みではないことを切に祈っている。